

ムギ類赤かび病情報第1号（コムギ、六条大麦）

令和8年4月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

平年より生育早い！ 防除適期（開花始期～開花期） を逃さないように防除しましょう！

1 近年のムギ類赤かび病の発生状況

- 前々年（令和6年）5月下旬の巡回調査では、赤かび病の発病穂率が過去10年で最も高い状況でした。前年（令和7年）の発病穂率は、前々年より減少しましたが、近年発生が多い状況が続いており、一次伝染源となる越冬した病原菌の量が多くなっていると推測されます（図）。

2 防除対策

- ムギ類赤かび病の感染予防のための**防除適期は、開花を始めた時期から開花期（※）までの間です**。また、近年発生量が高まっているため、1回目（開花期）の防除から7～10日後に2回目の防除を実施し被害防止に努めましょう。
なお、防除の際は、耐性菌の発生を防ぐため同系統の薬剤の連用は避けましょう。
- 名古屋地方気象台4月1日発表の1週間予報では、曇りや雨と予想される日が多く、今後もムギ類赤かび病の感染に好適な気象条件となる可能性が高い見込みです。また、作物研究部発表の麦生育診断情報（第3報）によると、3月16日現在、出穂期は平年に比べ「きぬあかり」では1日から6日早く、「ゆめあかり」では1日から5日早いと予測されています。
生育予測ツール（Agrilook）を活用するなど、**ほ場ごとの生育状況に特に注意し、防除適期を逃さないように**表を参考に防除を実施しましょう。

※開花期：1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達した日

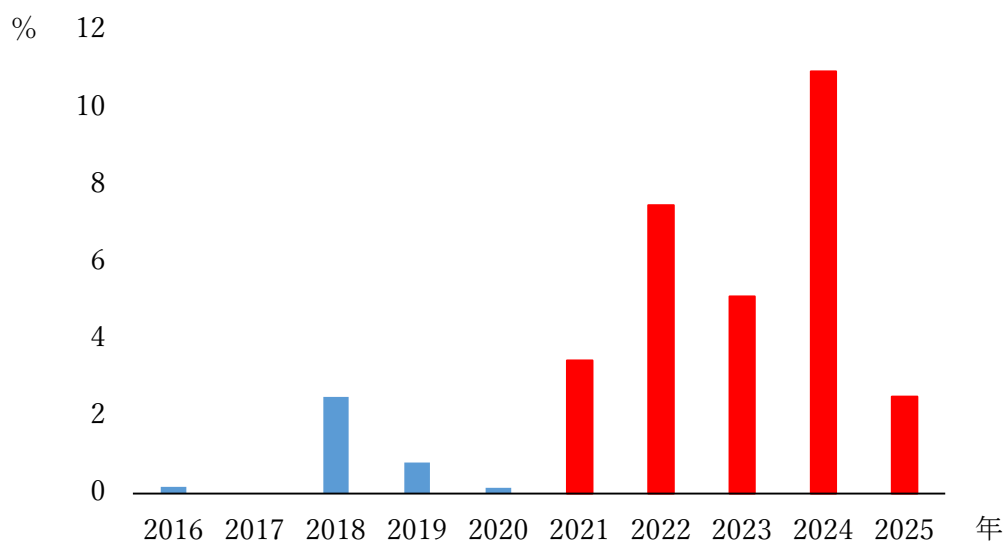


図 5月下旬調査におけるムギ類赤かび病の発病穂率（県内20ほ場の平均）

3 かび毒について

- 本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけでなく、デオキシニバレノール (DON) やニバレノール (NIV) 等のかび毒を発生させることがあります。このため、ムギ類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisinn.html）」を参考としてください。

表 ムギ類赤かび病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード	
	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1	
	トップジンMゾル					
小麦	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3	
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布		
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布		7
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3	
	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布		
大麦	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	散布	3	
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布		7
	(無人航空機用)					
作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード	
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機による散布	1	
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3	
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布		
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	7	
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3	
	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布		
大麦	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	無人航空機による散布	3	
	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布		7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/mechanism/FRAC_code_202505.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。